



12月の行事 大掃除

交野おりひめ大学通信

一人じゃ出来ないことを、10人で、50人で、100人で！

令和7年12月号



12月の花 ポインセチア



KATANO ORIHIME University
交野おりひめ大学

● そば学科 ● おさけ学科 ● クラフトビール部
● 交野伝説学科 ● 酒つくりの会 ● かのカンヴァス
● カフェ部 ● KATANOホイスコーレ準備室
● 目指せ！交野でティラノサウルススレーズ学科

交野の森で乾杯！

第3回目となる酒森2025

過去最高の賑わいに！

交野おりひめ大学の「熱意が、
交野の酒文化を盛り上げる。」

学科生の「やりたい！」を実現すること
を最大の理念とする交野おりひめ大学は、その活動を通して地域文化の活性化と創造に貢献しています。
大学内には、酒造りや酒文化を深める「おさけ学科」、「クラフトビール部」、そして「酒つくりの会」といった専門性の高い学科・部活動が存在し、交野の酒文化を支える基盤となっています。

昨年秋季施行された「交野市乾杯条例」の制定にも関わるなど、大学の活動と行政による文化振興の機運が高まる中、「やりたい」を形にする学科生の想いが結実したのが、秋の風物詩として定着した「酒森（さかもり）」です。

「こうした大学の活動と地域の機運を背景に、第3回目となる「酒森2025」が、クラフトビールと交野の地酒をメインに据え、秋晴れにも恵まれた11月1日（土）・2日（日）にわたり星の里いわね周辺で開催され、多くの市民やクラフトビール愛好家が、自然の中でクラフトビール、交野の地酒、そして地元交野の飲食店の味を堪能しました。

今号では、クラフトビール部の領倉リーダーが「酒森2025」を振り返ります。

〇3つの「楽しむ」への挑戦

1年ぶりの開催となった酒森2025は、これまでより準備期間を長く確保し、従来のテーマ「森の中でくつろぎと感動を」を継承しつつ、新たに「自然を楽しむ、交流を楽しむ、地域を楽しむ」をコンセプトに掲げ、これまでの経験を活かしつつ、様々な新しい取り組みに挑戦しました。

◇自然を楽しむ

今回の酒森では、より深く自然を感じてもらうための工夫を凝らしました。ブルワリーと地酒のブースを森側に集約した会場配置は、「森が近いと感じた」、「散策しながら、ビールを選んで楽しい。」といった来場者の声を多くいただきました。

また、森の中にラグを敷いた休憩スペースやステージを設置し、手品や紙芝居などを披露。さらに河原へのアクセスを開放したことで、来場者された方々には思い思いの場所で、ゆったりとくつろぎの時間を過ごしていただけたと思います。

◇交流を楽しむ

お客様、ブルワリー、スタッフ間の新たな交流を生むための試みが、酒森に新たな魅力を加えました。特に、1時間ごとのブルワリーによる乾杯コールは大きな盛り上がりを見せ、出店者とお客様の距離が一気に縮まりました。

また、場所ではなく「スタッフを探すユニークなスタンプラーリー」は、会話のきっかけとなり、会場全体に笑顔と活気があふれました。写真撮影用パネルも、お客様とスタッフのコミュニケーションを深める予想外のツールとなり、好評でした。



たくさんの来場者と一緒に、乾杯！

◇地域を楽しむ

交野ブランドの発信にも注力し、飲食店は、交野市内の事業者さんに限定。ステージパフォーマーも地元ゆかりの方々を選定し、交野の味と、芸能の魅力を満喫してもらう場としました。交野PR大使の小椋寛子さんに初日のMCを務めていただき、その親しみやすい人柄で会場の雰囲気を一層和ませました。市外からの来場者も多く、「アンケートで交野の銘品が当たり、交野の良さを知った。」と、地域を感じる取り組みに大変喜んでおられました。



森の中でクラフトビールを。みなさんいい笑顔ですね！

〇次回に向けて

今回は、前回以上に幅広い年齢層の方々に楽しんでいただき、スタッフ一同、自分たちの目指す形をかなり実現できたという強い手応えを感じています。

交野市から約33%、近隣市を含めると約50%という高い地元来場率を達成しましたが、次回はもっと地元の方にもお越しいただき、「酒森で上積みしていくワクワクを一緒に楽しんでいただけるよう、更なる企画を検討していきたい」と、スタッフの意気込みもさらに高まっています。交野の秋の風物詩として、次回開催にも大きな期待が寄せられます。

次回開催を、どうぞお楽しみに！

（井上筆）